



学校教育目標

自ら求めて学ぶ心豊かな生徒の育成

文責 長谷川 忍

ありがとう

2月28日（金）、3年生の人権授業参観後に学校運営協議会を行いました。学校運営協議員の方々からは、授業や交通マナー等について多くの感想をいただきましたので一部を紹介します。

「生徒の人格が形成できる授業」「生徒の今の思いを大切にした授業」「静かの中に活気のある授業」「先生の本気が伝わる授業」「今の生徒の本音を発表できていた」「子どもの表情がよい」「授業が充実している」「校外で昨年より落ち着きがみられる」「高瀬川土手の交通マナーがよくなった」「声を出して挨拶してくれる」「交差点で止まると、会釈で感謝の気持ちを伝えてくれる」等々…

たくさんのお褒めの言葉をいただき、自分のことではないのに嬉しくなりました。特に、会釈で感謝の気持ちを伝えられる人が増えたのは、みなさんの心が成長してきた証であると考えます。

ところで、「ありがとう」を漢字で書くとどうなるのでしょうか？…………… 答えは「有り難う」です。「有る」ことが「難しい」となり、その意味は「めったにない」「珍しく貴重である」となります。

では、反対語は何でしょうか？…………… 答えは「当たり前」です。

みなさんは、どんな時に「ありがとう」を使っていますか。困っている時や助けてもらった時ですか。それとも、欲しい物を買ってもらった時ですか。私は、自分にとってうれしい時に使います。

では、「朝、起こされた時」、「誉められた時」、「叱られた時」に、「ありがとう」と言っていますか。ほとんどの人が言っていないと思います。なぜならみなさんにとって、自分の親が子供を起こすのは当たり前、いいことをしたり頑張ったりしたら、誉めてもらうのが当たり前、と思っている人が多いからです。また、叱られたのに「ありがとう」なんて言う訳がない、と思う人も多いでしょう。

しかし、みなさんが当たり前だと考えている「朝、起こす」「誉める」などを、してもらえなかったら、どうでしょう。あるいは、悪いことをしたり、怠けたりしている時に「叱って」もらえなかったら、みなさんはどうなっていくのでしょうか。みなさんにとって当たり前を感じていることでも、実は、「有ることが難しく」「大変貴重なこと」が多いのです。当たり前を感じていることが、珍しいこと、貴重なことだと感じていれば、今まで以上に幸せな気持ちになれます。自分も幸せな気持ちになり、相手もうれしい気持ちになれる、この「ありがとう」という言葉を、意識的に使えたらいいですね。

「支えてくれている人に感謝」

上の言葉は、MLB ドジャーズ大谷翔平選手の名言の一つです。

昨年、大谷選手は元通訳の水原一平氏の件で、記者から「親友がいなくなったことで、感情的に何か感じるものは？」と尋ねられ、この質問に対して答えた言葉です。

「失った、それ以上に、チームメイトをはじめ、支えてくれている人たちがたくさんいるので、むしろその方たちに感謝したいと感じることが多いです。」

大谷選手が、公の場でスピーチをする時、感謝の言葉をよく口にします。感謝の念をもつことは、人を謙虚にさせます。スーパースターになっても謙虚である大谷選手の姿は、お手本だと思います。

何でも「当たり前」と思っていると、感謝の念は、わいてきません。感謝の念がないと、人はどこかで傲慢になっていきます。どんな人にも「支えてくれている人」がいるものです。大谷選手のように、「支えてくれている人」に対して「ありがたい」と思う「感謝の念」を忘れたくないものです。